

令和4年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和4年11月24日（木）10:00～11:20

場 所 事務局第一会議室及びZoom併用

出席者 [会議室] 坂井学長、黒川理事、柳澤理事、松田理事、市川理事、
佐々木委員、利根委員、平本委員、真下委員、山名委員
[Zoom] 砂川委員

欠席者 中村理事、小安委員、萩原委員

陪席者 [会議室] 山中監事、市橋副学長
[Zoom] 田代副学長、川又副学長、木崎副学長、伊藤副学長
井口人文社会科学研究科長、野中教養学部長、井原経済学部長、堀田教育学部長、
石井理工学研究科長、長澤理学部長、重原工学部長

○ 坂井学長から、中村理事、小安委員及び萩原委員が本会議を欠席すること、砂川委員が遅れて出席予定である旨報告があった。

○ 令和4年度第2回議事要録の確認について（資料1）

令和4年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 国立大学法人埼玉大学役員報酬規則、国立大学法人埼玉大学教職員給与規則、国立大学法人埼玉大学教職員特定年俸制給与等規則等の一部改正について

松田理事から、資料2に基づき、国家公務員一般職の職員の給与に関する法律の一部改正等に伴い、所要の改正を行う旨について説明があり、審議の結果、現在実施している労使間の協議が整うことを条件として承認された。

2 令和4年度学内補正予算について

松田理事から、資料3に基づき、令和4年度学内補正予算の概要及び年度当初予算からの主な増減要因についての説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 今後の見通しとしても水道光熱費は苦しいことになるかと思われる。補正予算を組んで今回の対応を行った後で、次の手としてはどのようなことを考えているのか。

△ 今年度は色々な予算を削ることで何とか対応したという状況である。電気代の高騰とは別に、契約電力量が逼迫するほどの電気使用量の増加も発生しており、学内向けに節電のお願いや対策実施等を行っている。一例として、学生による空き教室の自

習等での利用については、従来からエアコンの稼働も含めて特に制限を設けていなかったが、使用可能な教室を指定することなどにより学生に協力を求め、節電の効果を上げることができた。こういった細かいことも含めて、節電のムーブメントは起こしていきたい。今回は文部科学省から追加配分された運営費交付金を水道光熱費の高騰に充当しているが、追加配分が通知される前には各学部の未使用予算を吸い上げて工面する予算案を作成し、各学部等に示していた。その後、未使用予算を各学部へ再度戻した形になるため、その分の予算は省エネに関する設備等に充てるよう依頼している。また、来年度の予算については、年度当初から全て配分せずに一定数の留保をかけ、年度途中で補正を組んで各部局に戻す、といった抑制をしていかないと厳しくなると思われる。新たな節電の取組としては、大学ホームページにおける電力使用状況のインジケータ掲載など、様々なことを検討しているところである。

△ 本学では電力全体の25%程度がベース電力で、研究に使っている冷蔵庫や冷凍庫、機器を維持するための電力として使用されており、75%程度がその日によって違う照明や空調関係等の電力ということになる。75%の空調関係が節電の上で重要であり、夏場の電気使用量の大きい時期を回避するために学年暦を工夫することなど、今後も対策を考えていきたい。他大学では図書館の開館時間を短くしたり、電力を大きく消費する実験装置を停止したりするなどの事例もあるが、本学ではそういったことにはならないようにしていきたい。

3 学内予算によるプロジェクト事業について

松田理事から、資料4に基づき、令和4年度学内予算によるプロジェクト事業として脱炭素化推進のための設備機器等の整備・更新等を計画している旨について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 世の中の流れとして、これから国に対して予算要求する他の事業等についても、省エネルギーや脱炭素化を中心に据えて考えていく必要があると思われる。必然的にやらなくてはいけないことなので、こういったプロジェクトを作って進めていって欲しい。

(砂川委員が途中出席)

○ 報告事項

1 埼玉県立大学及び埼玉医科大学との連携状況について

坂井学長、黒川理事及び柳澤理事から、資料5に基づき、埼玉県立大学及び埼玉医科大学とそれぞれ締結した包括連携協定に基づき実施している共同研究や単位互換等の取組状況について報告があった。

☆ 論文等の研究評価や国の補助金施策等においても、理工系と医学系の分野連携が

重要視されている。大学としての位置付けを上げていくためにも、この連携を活用して対外的に発信できる成果が多く出せるように、積極的に進めていって欲しい。

△ 取組を大きくしていくために、大学間の連携と併せて、産業界との連携も強化していきたいと考えている。企業等と繋いでいくのは大学だけでは困難だが、現在はさいたま市からの支援を得られ、今後の進め方などを含めて頻繁に議論できる仕組みができたところであり、さらに取組を発展させていきたい。

△ 産学連携の形式だけでなく、大学間連携としては基礎研究でも協力していき、将来的には外部資金の獲得等も目指していきたいと考えている。

2 埼玉大学の国際戦略について

市橋副学長から、資料6に基づき、第4期中期目標期間における本学の教育・研究等の国際戦略について報告があった。

○ その他

1 埼玉大学の最近の動向について

坂井学長から、本学における最近の動向として、情報漏えい事案、埼大学生広報サポーターの任命、むつめ祭・ホームカミングデーの開催等について報告があった。

☆ 埼玉大学のメールマガジンにて、オジギソウの葉が動く仕組みについての研究成果が掲載されており、教科書にも掲載されている身近な植物ということもあり、児童生徒に対して良い刺激になったものと思われる。こういった研究成果の発信を通じて、大学での研究に興味を持ち、将来には研究に携わりたいと考える子供達が増えるといい。

△ 本学では以前より、ハイグレード理数高校生育成プログラム (HiGEPS) をはじめとした小中高校生向けの理数系教育の取組を行っており、今後報告したいと考えている。

2 次回日程 (令和5年1月26日 (木))

坂井学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上